

## 長期臥床患者における炭酸ガス入り入浴剤を使用した足浴効果

○齋藤 真理<sup>1</sup>、大槻 尚美<sup>1</sup>、館内 麻貴子<sup>1</sup>、大友 昭子<sup>1</sup>、早川 洋子<sup>1</sup>、川熊 のぶい<sup>1</sup>、  
長嶺 義秀<sup>2</sup>、藤原 悟<sup>3</sup>

<sup>1</sup>広南病院 東北療護センター、<sup>2</sup>広南病院 療護センター 診療部、<sup>3</sup>広南病院 脳神経外科

【目的】当センターの患者は重症頭部外傷後遺症により長期臥床状態にあることが多い。そのため、末梢循環能の低下があり、常に下肢冷感や皮膚色不良を伴っていることがある。今回、末梢循環能改善を目的として、炭酸ガス入り入浴剤を用いる足浴(炭酸入浴剤浴)と、温湯での足浴(温湯浴)を一定期間実施し、その効果を比較検討したので報告する。

【方法】対象は患者8名、年齢34～85歳(受傷後2～39年)。方法は(1)8名に炭酸入浴剤浴、(2)8名に温湯浴を実施した。(1)、(2)共、15分/日を各4週間実施し、下肢状態観察、酸素飽和度、足背皮膚表面温度(皮膚温)を不定期に1回/週、安静時・足浴後10分の2回評価を行った。

【結果】(1)は安静時皮膚温が平均2.3℃上昇、(2)は平均2.5℃下降した。それぞれ実施中末梢冷感と皮膚色改善があったが、酸素飽和度値は変動が激しかった。

【考察】温湯浴は皮膚温が温湯温度の影響を受けるが、炭酸入浴剤浴はこれに加え、炭酸ガス成分の影響を受け、皮膚温の上昇率が高いと推測される。今回皮膚血流量の指標に酸素飽和度を用いたが、この値は変動が大きく適切な評価方法ではなかったと考える。しかし、炭酸入浴剤浴、温湯浴共に末梢冷感や皮膚色改善があり、炭酸入浴剤浴は温湯浴より皮膚温の上昇と保持が明確であったことから、炭酸入浴剤浴は末梢循環能改善に効果的であると考えられる。

【結論】炭酸入浴剤浴の実施により患者の末梢循環の改善・悪化防止ができると考えられる。